第一一二回全日本剣道演武大会【京都大会】に初参加

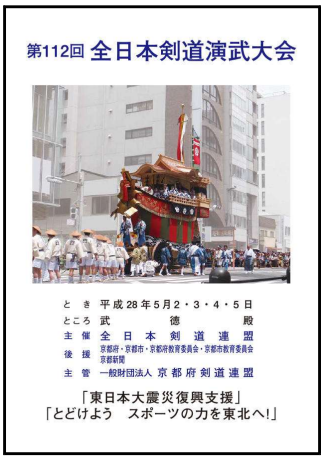
小椋治朗

平成28年5月3日、田畑修先生と2人で京都、武徳殿での演武大会に出場してきました。会場で神澤正輝先生と合流し、初参加の私は諸事を教えていただきました。結果は、2人とも引分けでした。（参加者は剣道2607名、居合、なぎなた、杖道合わせると3805名）心身ともに「疲れた～。」特に心に疲労を感じて帰ってきました。「剣道をなめるなヨ！」と諭された思いです。頭をゴツンとかガツン！と叩かれたとは少しニュアンスが違います。「サトされた」が一番しっくりします。お相手の本気さ、必死さ、決死の心がひしひしと伝わってきました。先が取れません。打ち込むことができません。凌ぐのが精一杯です。摺り上げメンも遅れがち。しかし、相手も見えるし、攻めも通じたと思います。渾身のメンを打ちました。返されましたが一本にはなりません。長く短い時間は終わりました。

最近は自分なりに良く稽古をしているつもりでした。しかし中身が違うようでした。『本気で。必死で。決死の心で』『先の攻め、先を取る』そんな稽古を積み重ねてその成果を試しに京都に臨む。それを毎年毎年重ねて自分を創る。そんなひたむきな人間性を感じた時間、空間、空気感でした。良い本を読んでも、良い教えを受けても、良い話を聞いても、どこか斜に構えたところを指摘されたようで、心に叱咤激励の一本を頂いた感じです。お相手に感謝・・・。

2分足らずの立会いでしたが、得るものは大きかったと思います。三木市剣道連盟の高段者の先生方、来年の5月は京都、武徳殿に新しい自分を探しにお出かけください。

（三木市剣道連盟副会長）



三木勢 全部門で沈黙

第39回東播少年剣道大会

於 加東市滝野総合公園体育館スカイピア

平成27年度最後を飾るビッグイベント、「第39回東播少年剣道大会」が平成28年3月27日（日）、兵庫県剣道連盟東播地区協議会に所属する少年剣道教室の生徒らを網羅して、加東市を会場に行われた。参加チームは、小学生男子443、女子288、中学生男子20、女子144チームだった。5年前の大会に比べても小・中とも参加チームは幾分減ってはいるが、東播地区最大の剣道大会であることには違いがない。

好天に恵まれ、試合場である滝野総合公園体育館スカイピアは選手・役員・応援の父母たちでごった返した。

試合は団体戦のみで、小・中の男女4部門。三木からは小学生男子、7チーム、女子3チーム。中学生に至っては、僅かに男子2チーム、女子0というやや寂しい参加だった。

一番参加チームが多かった小学生男子の部だが出場43チーム中、予選リーグを脱出できたのは「三木中央」の1チームのみ。他はすべて予選リーグで沈んだ。この部門で注目されたのは昨年の覇者「印南剣道場」と「加古川警察少年剣道会」の手に汗握る決勝戦であった。結局僅差で加古川警察少年剣道会が印南剣道場を下して優勝したが、見ごたえある立派な試合だった。たった1チームの出場だった「小野柳心館」の3位入賞も立派だ。

小学生女子は、「二見北剣道教室」（明石）が食い下がったが、男子に続いて「加古川警察少年剣道会」が優勝し、小学生男女同時優勝を果たし、圧倒的な強さを見せた。

中学生は中学校のレベルが高く、部員数も多い、高砂勢が圧倒的な力を見せつけた。

男女とも高砂勢がほぼ入賞を独占し、加西市の「北条少年剣修会」が男女ともかろうじて3位に食い込んで、意地を見せた。我が三木市は頼みの吉川チームが出場もかなわず、全く沈黙した。

（報告 高橋洋三）